

報道機関各位

財団法人東北活性化研究センター  
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成23年9月東北分  
(新潟を含む東北7県)」について

財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成23年9月東北分(新潟を含む東北7県)」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

【基調判断】

●今月の基調判断…東北地域の景気は

「東日本大震災の影響があるなか、持ち直しの動きが弱まっている」

(据え置き)

- ・一部の高額品や秋物商材、求人にも動きがあるほか、企業活動でも売上や受注の面で一部に回復の兆しがみられるものの、復興需要は一部を除き落ち着き、東日本大震災や放射能汚染及び風評被害の影響も依然としてみられる。一方、先行きは住宅や求人など復興関連の需要に加え、秋冬物商材の動きに期待があるものの、放射能汚染及び風評被害並びに為替・株式動向、増税論議を背景とした消費や企業活動、雇用への影響が懸念されている。このことから、総合的には東日本大震災の影響があるなか、持ち直しの動きが弱まっていると判断される。

【調査結果のポイント】

(1) キーワード

- ・プラスのキーワード  
…復興需要（現状、先行き）、秋冬物（先行き）
- ・マイナスのキーワード  
…放射能汚染及び風評被害（現状、先行き）、低価格・買い控え（現状、先行き）、為替・株式（先行き）、増税（先行き）

(2) 現状判断（3か月前との比較、方向性）

- ・現状判断DI「47.8」（▲2.1）は、2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回った。
- ・家計動向は、観光・レジャーで学校・団体客に一部回復の兆しがみられるほか、一部で高額商品、秋物商材に動きがある一方、低価格志向や不要な物を購入しない傾向もうかがえる。また、一部を除き震災特需や復興需要は一段落し、原発事故に伴う放射能汚染の影響も続いている。DIは「44.4」（▲2.2）と2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回った。
- ・企業動向は、震災特需や復興需要は落ち着きつつあるが、建設では瓦れき処理などに動きがある。また、風評被害による農産物への影響や円高の影響が一部にみられるものの、

製造業などの一部では売上や受注が前年もしくは震災前の水準に戻りつつあるなど回復の動きもみられる。DIは「52.6」(+0.1)と横ばいで、景気判断の基準となる50を4か月連続で上回った。

- ・雇用動向は、雇用保険の需給延長による求職者の動きの鈍化や正規社員及び新規学卒者の求人が少ないなど一部で厳しい状況がうかがえるが、被災県では建設など復旧・復興関連の求人が引き続き好調なことに加え、飲食店などの求人にも動きがみられる。DIは「60.7」(▲6.0)と2か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を3か月連続で上回った。

### (3) 先行き判断(3か月先の見通し、方向性)

- ・先行き判断DI「46.7」(▲1.9)は、2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回った。
- ・家計動向は、一部を除き震災特需や復興需要が落ち着くなかで、秋冬物商材の動きに期待があるものの、低価格志向や放射能汚染及び風評被害の影響に加え、円高や増税論議を背景とした先行き不安感から、消費の低迷に懸念が持たれている。DIは「45.3」(▲0.1)と2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を17か月連続で下回った。
- ・企業動向は、住宅建設や補修工事などで引き続き復旧・復興需要が期待されるほか、製造業や卸売業の一部では生産や売上の増加が見込まれるものの、円高や株価低迷などによる企業活動への影響が懸念されている。また、農産物では引き続き風評被害による影響が懸念されている。DIは「49.3」(▲5.1)と2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を4か月ぶりに下回った。
- ・雇用動向は、短期的には被災県を中心に引き続き復旧・復興関連の求人増加が見込まれるものの、長期的には先行きに対する不安感に加え、円高や株価低迷による雇用環境の悪化が懸念されている。DIは「51.2」(▲8.3)と2か月連続で前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を5か月連続で上回った。

以上

#### <添付資料>

- 調査結果の概要

#### <お問い合わせ先>

財団法人 東北活性化研究センター(担当:木村)  
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10  
TEL:022-222-3394 FAX:022-222-3395

## 【調査結果の概要】

### 1. 今月の基調判断

景気ウォッチャーの判断によれば、東北地域の景気は、東日本大震災の影響があるなか、持ち直しの動きが弱まっているとのことである。

### 2. 今月のDI※

#### (1) 現状判断（方向性）DI

3か月前との比較である現状判断DIは、「47.8」（▲2.1）と2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回った。

	22年					23年								
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東北現状	42.9	40.7	38.6	42.0	45.1	42.8	48.9	16.8	23.5	35.7	52.8	59.5	49.9	47.8
家計動向関連	44.2	39.2	36.9	40.1	44.2	40.0	48.2	15.3	25.2	36.6	52.3	59.6	46.6	44.4
企業動向関連	38.4	40.4	38.4	45.1	47.6	44.5	50.0	18.2	23.1	36.5	59.9	57.5	52.5	52.6
雇用関連(参考)	43.2	51.2	50.0	47.6	46.6	57.1	51.2	23.8	13.6	28.6	42.9	63.1	66.7	60.7

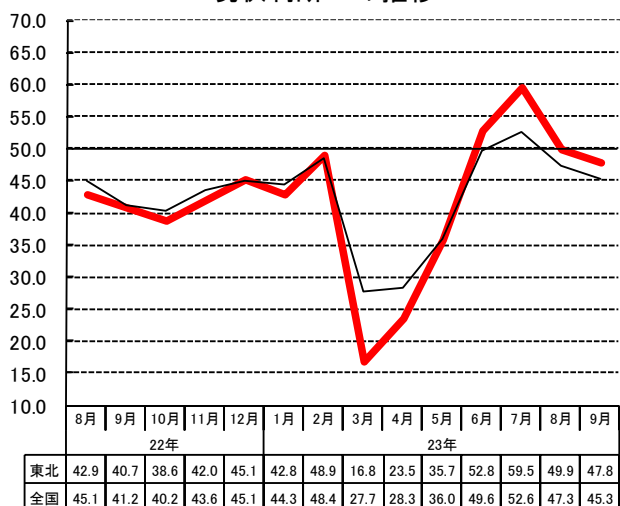
#### (2) 先行き判断DI

3か月先を予想する先行き判断DIは、「46.7」（▲1.9）と2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回った。

	22年					23年								
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東北先行き	37.6	38.6	37.1	40.1	43.5	47.9	47.6	21.1	36.7	45.4	49.2	51.0	48.6	46.7
家計動向関連	37.6	37.6	36.4	40.7	42.6	47.5	47.4	20.7	36.1	43.5	47.1	47.4	45.4	45.3
企業動向関連	39.0	39.1	37.2	37.2	45.1	47.6	46.2	19.6	39.1	47.3	53.3	56.3	54.4	49.3
雇用関連(参考)	35.2	44.0	41.7	41.7	46.6	51.2	51.2	26.2	36.4	54.8	56.0	64.3	59.5	51.2

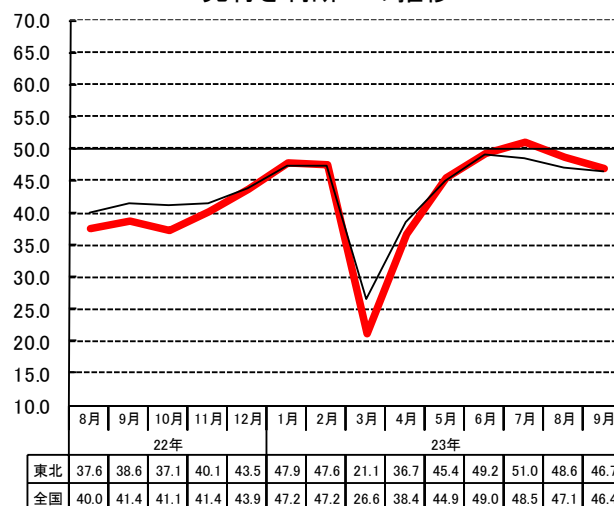
※DI（Diffusion Index）について…50を基準とし、50を超えると景気が良い方向にあることを示す。

現状判断DIの推移



— 東北 — 全国

先行き判断DIの推移



— 東北 — 全国

### 3. 調査の概要

調査期間 平成23年9月25日～30日

回答者数 192/210名、回答率91.4%（全国1,876/2,050名、91.5%）

#### 4. 特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

##### （1）現状判断理由

###### ○「良くなっている」

（住宅販売会社）…当地域では、市町村合併に伴う特例債を活用した公共建築物の工事が活発になっており、現場を支える業者が不足するほど忙しくなっている。住宅の受注、着工についても前年を上回っている。

###### ○「やや良くなっている」

（百貨店）…気温の低下もあり、消費が急激に活発になってきている。アパレルを中心とした取引先の商品量も震災前に戻り、客も選択肢が増え買物を楽しんでいる様子が見える。宝飾、服飾雑貨の高額品なども前年以上に動いている。

（衣料品専門店）…残暑の終わりが分かりやすいこともあって、秋物のスーツを求める客の動きが例年より良くなっており、後半から伸びてきている。単価もそこそこの商品が売れている。

（高級レストラン）…震災特需の波が明らかにきている。ホテルにおける宿泊、宴会、レストランでの接待などで顕著になっている。

（旅行代理店）…4～6月に予定されていた修学旅行が移行してきているため、全体的に伸びている。

（出版・印刷・同関連産業）…3か月前と比べ、売上が前年同月比の水準に近づいてきている。

（建設業）…自治体の瓦れき処理案件が新規で出件されている。また、官庁及び民間の案件についてもコンスタントに出件が続いている。

（広告業協会）…新聞、交通広告、折込などは依然苦戦が続いているものの、媒体関係もテレビ、ラジオのスポットは前年並みに回復してきている。また、被災した水産加工工場の生産活動が再開し、流通関係の販売も好調で、広告業界は少し明るさが見えてきている。

（人材派遣会社）…大規模コールセンターの誘致が決定したり、自動車工場の期間従業員がアウトソーシングで流れてきたりと、具体的なオーダーが入り始めている。それに呼応するかのように入材も活発に動き始めた様子が見える。

（人材派遣会社）…住宅関連やカー用品の販売、ガーデニング関係の卸など、震災後の復興特需で元気な企業が求人を出している。

（職業安定所）…震災復興関連の求人が依然として好調なことに加え、介護関係、飲食店などの求人が増加している。一方で、円高等の影響もあり、製造業の求人が減少しているため、求人の増加は鈍化している。

###### ○「変わらない」

（商店街）…ここ半年程度、飲料、日用品、雑貨は前年並みもしくはプラスとなっているが、文房具、書籍、化粧品等の不急な商品は落ち込みが続いている。

（医薬品販売店）…平日の来客は悪くないものの、ここ1、2か月、売出し期間の売上は前年を割る状態が続いている。客の動きがいまいちつかめない。

（百貨店）…震災特需が継続しており、売上は前年比2けた増が続いている。気温も平年並みになり、秋物の動きも良い。ブランド品、高級時計など今まで不調だった商品にも動きが見られるようになってきている。

（コンビニ）…来客数は安定しており、前年比増となっている。主力商材も比較的堅調に推移しており好調といえる。ただし、福島の店舗に関しては伸長が鈍化してきており、地域間格差が顕著になってきているような印象がある。

（乗用車販売店）…新車の販売はエコカーやハイブリッドカー、燃費の良い軽自動車しか動いていない。価格が安いことが購入の条件のように見受けられる。

（酒類専門店）…売場の動きは相変わらず単価の安いものを中心に、低価格商品への一極集中が進んで

- いる。飲食店も厳しい状況が続いているが、地元の常連客を中心に客足が少し戻ったようである。
- (一般レストラン) …消費者は景気に敏感であり、値引きをすると客足も伸びる。3か月前と比べ、良くなったわけでも悪くなったわけでもなく、小康状態である。
- (都市型ホテル) …宿泊部門はコンクールや大会等の開催により稼働率は高い。レストランもランチタイムを中心に順調に推移しているが、低価格販売のため利益率は悪い。一般宴会は予想を下回っている。
- (繊維工業) …夏物の販売も終わり、店頭の商品は一段落している。秋物はまだあまり動きが無い。
- (一般機械器具製造業) …自動車部品については震災前の水準に戻りつつある。
- (飲食料品卸売業) …東北の物産への支援需要は落ち着いてきたものの、清酒、特に被災3県の地酒に関しては依然として引き合いが強い。復興関係者で夜間人口が増加した市街地では、飲食店向けの出荷が引き続き好調である。
- (人材派遣会社) …一般企業の求人が増えていないことに加え、雇用保険受給延長によるものか、求職者の動きが鈍くなっている。
- (職業安定所) …新規求人数は前年同月比で増加しているものの、新卒者を対象とする求人は下回っている。
- (職業安定所) …新規求人数は前年比で増加を続けているものの、小幅にとどまっている。正規社員の求人も少ない。

### ○「やや悪くなっている」

- (雑貨販売店) …厳しい残暑や台風等の荒天により、買物客が減少している。また、消費者の買いたいものと商品がマッチしていないようであり、秋物商戦は大変苦戦している。
- (スーパー) …7、8月は順調であった売上が、9月に入り低迷している。競合他社の状況も同様で、打開すべくチラシ価格を下げて集客をはかっているが、客は unnecessary 商品は買わなくなっている。
- (スーパー) …放射能汚染問題が、秋果実や牛肉、米などの販売量に影響を及ぼしている。
- (コンビニ) …たばこ増税から一巡し、前年比でみると客単価の伸長が鈍ってきている。また、買上点数も下降気味である。
- (家電量販店) …地上デジタル放送移行に伴う特需に代わる商品がない状態のなかで、販売量を始め、すべてにおいて数字が下がっている。
- (観光型旅館) …予約数は順調だが、単価の低下傾向が止まらない。同業各社も値下げしてきており、価格競争が深刻化している。現在の団体旅行市場の大部分が成熟市場から衰退市場へととなっているが、経営に具体的施策が無く、又は踏み切れず、今のところ値下げ販売の傾向を止められない。
- (電気機械器具製造業) …復興景気が一時あったものの、現在は落ち着きつつあり、むしろ東北域外へ仕事が流出しつつあるところが浮き彫りになってきている。
- (電気機械器具製造業) …円高が企業の業績に大きな影響を与えており、経済全体が下向きになっている。

### ○「悪くなっている」

- (百貨店) …秋物商材の動きが悪い。気温が高めに推移したことも要因としてあるが、全体的に客単価も下がっており、衣料品も厳しい状況である。来客数は下がっていないが買上率が下がっている。
- (観光型旅館) …東日本大震災被災者の旅館への2次避難も、仮設住宅などへの移動により、8月以降急激に減少している。観光客は、復興応援プランなど旅行会社の商品は動いているものの、大手契約旅館に集中しており、中小旅館への宿泊予約は非常に少ない。宿泊者ゼロの日が数日あるなど、今までにないほど冷え込んでいる。

## (2) 先行き判断理由

### ○「やや良くなる」

- (百貨店) …景気の冷え込みは家計に大きな影響を与えているが、施策の打ち出し方次第で良い物やト

レンド商品も必要な物は売れる。ただし、売上は得意客の購買動向によっても左右される。

(衣料品専門店) …これまではお悔やみ中心であった礼服の需要だが、ブライダルに関しても少しずつ動きが出始めており、今後の伸びが期待される。また、客の様子からは、しっかりとスーツを着て、気を引き締めて仕事をしようという感じが見受けられ、秋物スーツの導入が非常に良くなっており、今後も売れていくのではないかと予測している。

(乗用車販売店) …秋以降の本格的な生産回復に合わせて、3月末までのエコカー減税の駆け込み需要も見込まれる。

(都市型ホテル) …今まで自粛気味だった婚礼について、予約状況は10、11月共に前年並に回復している。

(木材木製品製造業) …震災の復興支援等により、住宅建設が進むと見ている。

(輸送業) …東日本大震災の復旧は見通しに近い状況で進んでおり、生産活動も活発になってきているため、今後の物量増加も大いに期待が持てる。

(飲食料品卸売業) …復興需要でビジネスホテルの満室が続くなか、東北新幹線の完全復旧で一般旅行者向けのツアーも再開し、温泉旅館向けの出荷が徐々に回復してきている。観光産業の復興が見え始めてきたため、期待が持てる。

(人材派遣会社) …人員動員を必要とする集約型の案件相談や技術職専門職、雇用対策関係の職種などでは、今後の予算化に伴って、良くなるとの期待感を持っている。

(人材派遣会社) …電力系の企業で一部経費節減の声が上がっているものの、他の業種では人材の採用に予算をかけるという企業が比較的多くなっている。

(新聞社〔求人広告〕) …公共的なプロジェクトが政府の復興予算がらみで動き出している。それには必ず雇用予算が付き、2～5割を占めることもあって、雇用対策の促進の原動力になっている。しかし、短期的には復興による景気の促進にはなるが、長期的には見えず、不安感がぬぐい去れない。

## ○「変わらない」

(医薬品販売店) …東日本大震災以来、特に年配者において、不安な気持ちが多く見受けられる。ある程度の現金が手元にないと心細いようである。必要なものは買ってもらえるが、好みのものがなければ我慢しているようである。また、月3回から1回に減少するなど来店回数の間隔があいている。このような状況はしばらく続くと見ている。

(寝具販売店) …東日本大震災被災者の冬物需要に期待している。

(百貨店) …エネルギー事情に不安があるため、冬場のシーズンアイテムに対する関心度が強いと感じる。ウォームビズ商戦が活発になることが予測され、現状のまま推移していくと見ている。

(スーパー) …商圈内において、震災前より激しいチラシ価格、ディスカウント合戦が続いていることから、単価の減少及び売上が伸び悩む状況がしばらく続くことが予想される。

(衣料品専門店) …震災の影響が落ち着き、県外へ避難していた住民が戻ってきている。また、仮設住宅入居者を含め、秋冬物商品へのモチベーションが高まってきている。

(住関連専門店) …住宅着工は多少増加しているが、家具についてはあまり予算をかけられないため、少しずつ買いそろえる傾向が強くなっている。

(ガソリンスタンド) …建設土木関係の需要は堅調であるが、その他の業種は先が見えず、今後の需給見通しが立たない。車両が流されているため、燃料、車両関連の需給の動きは不透明である。総じて先の判断は困難である。

(都市型ホテル) …先行きの不透明感が増すばかりで、消費マインドも過度の守りに入っているようである。震災の影響も色濃く残っており、忘年会新年会の予約状況は非常に遅れている。

(一般機械器具製造業) …自動車部品についてはメーカーの増産計画もあり、かなりの増加が予想されるが、現状の為替水準が続くようであればかなり厳しい。

(建設業) …瓦れき処理案件の発注が若干落ち着く可能性もあるが、補修、改築等を中心とした案件の出件が続く見込みである。

(広告代理店) …震災により取引先が減っているため、前年の販売量には戻らず、現状維持がやっとと見ている。

(新聞社〔求人広告〕) …東日本大震災の被災3県には、人、物、金が集まっており、復興需要が見られるが、それ以外の東北各県では好況の兆しは見受けられない。

(職業安定所) …新規求人の増加基調が続いているものの力強さはない。また、中小企業の企業整理が発生している。雇用調整を実施する企業は横ばいで推移している。

(職業安定所) …震災復興関連の求人は今後も相当数見込まれるものの、円高がそのまま続けば製造業への影響は避けられない。また、求職者は減少傾向にあるものの、失業期間が長期にわたる人も多く、滞留傾向にあり、円高の状況など状況を注視する必要がある。

## ○「やや悪くなる」

(雑貨販売店) …復興需要に引っ張られて、経済や企業収益も回復するようなことが言われてきたが、消費のところには全く光が当たっていない。冬のボーナス商戦も含めて、非常に厳しい状況が続くと考えている。

(百貨店) …今までは復興需要が特に大きかったが、復興が進むにつれ被災地にある商業施設も軒並み営業を再開しているため、景気はやや悪くなる。

(スーパー) …当社営業エリア内に競合店の新規出店が予定されており、競合店との価格競争は更に激化することが予想される。価格政策の強化による利益の低下も懸念される。

(コンビニ) …増税が議論されるなか、客との会話でも景気の良い話はほとんど聞かれず、消費行動は冷え込んでいくことが予想される。

(家電量販店) …テレビを中心に先食いをした感があることに加え、この先目立った商品の販売予定もなく、景気が上向き要素が見当たらない。

(乗用車販売店) …景気の一服感からか必要不可欠な買換え需要しか無く、顧客の買い回り動向とも相まって、減収傾向が強くなっていく。

(食料品製造業) …歳暮ギフトの市場が縮小しており、年末の大きな受注ピークは期待できない。

(電気機械器具製造業) …円高水準が継続し、企業の業績悪化対策も継続されるため、景気はやや悪くなる。

(金属工業協同組合) …受注量の減少、さらにはコストダウンの要請が厳しくなっており、この先良くなる材料が見当たらない。

(職業安定所) …円高が長期的に続くようであれば、求人数に影響が出てくる。

## ○「悪くなる」

(医薬品販売店) …風評被害により、地域経済がまひしたような状態になりつつあるため、悪い状態が続く。

(観光型旅館) …経済的復興支援が本格化し、被災地3県へのツアーの設定や、東京都が行っている被災地応援ツアーへの助成金支給のような助成策が行われるようになると、被災地に立地していない当館は非常に厳しい状況になる。また、震災による減収のため、従業員の減給が継続して行われており、元に戻る見込みが無い。

(農林水産業) …風評被害により、桃と同様、贈答用りんごの個人からの注文も激減することが予想される。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上